NHK高校講座　生物基礎　　「植生の遷移」　聞き取りノート

火山の噴火後、溶岩に覆われた場所は植物が全くない（　　　　　　　　）となる。

ある場所の植生が時間とともに変化することを（　　　　　　　　　　）といい、溶岩台地などの土壌のない場所からはじまる（　　　　　　　　　　　）を（　　　　　　　　　　）という。

1983年の噴火跡（比較的新しい場所）

植物は少ない。

優占種は（　　　　　　　　　　　　）という木本植物。

多年生草本植物として（　　　　　　　　　）や（　　　　　　　　　　　）が生える。

岩のすき間には（　　　　　）類が生える。

オオバヤシャブシのように遷移の初期に生える植物を（　　　　　　　）種という。

カルシウムやマグネシウム、リンなどが乏しい（あるにはあるが植物が使えない）

オオバヤシャブシの根には（　　　　　　）があり、放線菌（根粒菌）が住み着いている。

中腹は潮風による悪影響が少なく、湿潤で植物が繁茂しやすい。

優占種はオオバヤシャブシ。ススキやイタドリも多い。

ヤシャブシやイタドリの落ち葉が分解されている。

1962年の噴火跡（低木林から森林へ）

オオバヤシャブシが大きくなっている。

森になることで明るさが（　　　　　　　）くなる。

それは（　　　　　　　　　　　）であるタブノキが入るため。

（　　　　　　　　）が発達してふかふかしている。

ヤシャブシやクロマツ、サクラなどのように

日当たりのいいところで育つ植物を（　　　　　　　　）といい、その性質をもつ樹木を（　　　　　　　　　　　）という。

1874年の噴火跡（薄暗い森林に発達）

森林が発達すると下にいけばいくほど（　　　　　　）くなる。

タブノキやスダジイなど暗い環境でも生育できる植物を（　　　　　　　　　　）といい、その性質をもつ樹木を（　　　　　　　　　　　）という。

陰樹は明るくても暗くてもよく育つ。

1000年前の噴火跡（極相林）

遷移が進行した結果、大きな変化みられない安定した状態を（　　　　　　　　）という。

極相林になったあと木が倒れた場所を（　　　　　　　　　）という。

山火事や森林伐採後の（　　　　　　　）が残った状態からはじまる遷移を（　　　　　　　　）という。

二次遷移では栄養や根が残っているので進行が（　　　　　）い。